

# 女性弁理士のための独立を知るヒント

会員 長谷川 智子

独立して1年半。時間はあっという間に過ぎ、未だ自分の事務所については満足することより求めることの方が多い駆け出しの身である。とても独立について語るような立場にはないと思うが、女性が独立すること、独立時に準備したこと、仕事と家庭について等、これまで感じてきたこと、行ってきたことをご紹介しますことで、本稿が独立している女性弁理士を知る一つの機会となり、また、独立を考えている女性弁理士の方々のご参考となれば幸いです。

## 1. 女性が独立をするということ

事務所開設当時、「弁理士」の肩書きの名刺を渡すと、相手から「所長はご主人ですか？」とよく聞かれた。確かに夫も弁理士なのだが、なぜ相手はそれを知っているのだろうと、最初のうちは不思議に思えてならなかった。その後、事務所名に苗字を使用しているから、同じ苗字であり男性である夫が所長だろうと相手が想像していることが分かった。夫婦で弁理士という家庭もなくはないが、女性が独立している確率と、主人が弁理士である確率を比較した時に、後者が高いと考えている人が少なからずいるのだから、やはり女性の独立は珍しいのだろう。

社会において女性弁理士の独立が珍しいと思われることなど予想もつかない程、自分では女性が独立することは普通のことだと思っていた。特許事務所やそれ以外の業界で活躍されている方を拝見していても再認識させられることだが、独立する上で老若男女は本質的な問題ではなく、経験、仕事への思い（大変な場面でも逃げずに踏ん張れる）、適正、柔軟さ、人徳、体力、環境等のその人が持っている特長や、その特長を上手に活かせるかどうかの方が大切だと思っている。

## 2. 独立の準備

読者の中には独立を考えている方もおられるかもし

れないので、もう少し具体的に独立をした時に何をしたいかについて紹介したい。特許事務所の設立時又は設立後短期間に用意したものは、事務所、PC、ソフト類（ワープロ・表計算、青色申告ソフト、ホームページ作成ソフト等）、机、書棚、電話機、複合機、シュレッダー、文房具等の備品等を挙げることができる。事務所は、独立後、収入が少し安定してからオフィスを借り、それまでは自宅をオフィスと兼用していた。自宅で仕事をする場合、最も不自由だったのはクライアントとの打合せである。自宅に事務所専用の打合せの場所を用意することはできず、かといって秘密事項を含む内容を喫茶店等で話すわけにもいかないから、結局、事務所で打合せを希望されるクライアントであってもお願いして先方に伺うようにしていた。念のため貸会議室のリストを作って、いざという時に利用できるようにしておいたが、結局一度も使わなかった。

オフィスを借りる場合、資金を考慮して初期費用の予算を立てた。請求サイクルも関係するが、仕事が回りだすと支出が先に立つし、事務員の雇用等の必要が生じることもある。また、オフィスを探す時には、月額の家賃や管理費の他、敷金、立地、持ち主、同じビルに入居している企業、OAフロアやインターネット回線等のIT環境、セキュリティ、清掃が行き届いているか等を確認した。例えば、私の事務所が入っているオフィスは、ベンチャー向けの施設で、敷金が必要ない上、共有の会議室も無料で（共用施設費は払っている）使用できるので大変便利である。更に、このオフィスには、泊りがけで頑張れと言わんばかりにシャワーも完備されている（実際、隣の部屋は私より年配の方が入居されているが、夜遅くになっても電気がついている…）。

オフィスが決まれば、一気に準備を進めていくことができる。レイアウトを考えて什器を発注し、パソコン等の電化製品を購入し、複合機のリース契約を結んで、電話回線、インターネット回線・プロバイダの手

続、オフィス内配線の依頼をした。細かな備品はオフィスが立ち上がってから、注文して揃えた。什器や電化製品は、自宅で使用していたものでそのまま使用できるものはこれを使用し、また、大工をしている義理の父からは一部の家具をプレゼントしてもらった。オフィスのセットアップ時に什器メーカーは事前に事務所へ足を運んで間取りを採寸し、正確なレイアウトを考えてくれたが、複合機のリースを契約した会社にIT配線サービスを依頼したところ、一度も採寸には訪れず、当日、必要量の5～10倍もある長さのLANケーブルを持ってきた。その上、一月後に突然インターネットが使用できなくなり、配線をチェックするようにアドバイスを受けた。一つ一つ確認したところ、OAフロアのコンクリートに踏まれて無残にちぎれたLANケーブルが発見された。当然ケーブルは無料で交換してもらったが、その会社は、子会社とはいえ日本では知らない人のいない大手電機メーカーの看板を背負っている会社であった。少し残念な気持ちになると共に自分で確認することの大切さを再認識させられた。

設立時に行った手続としては、特許庁や弁理士会への登録（変更）手続、特許出願端末の用意（インターネット出願用ビジネス認証等）、保険等の準備がある。中でも思いのほか苦戦したのは、ビジネス認証だった。当初申請していたところは先方から連絡が来るまでに数ヶ月もかかった上、事務所の引越しがあったため、公的証明書類を用意するために特許庁に住所変更届の証明請求手続をしなければならなかった。ところが、特許庁に届け出た住所には事務所名を併記していなかったため、特許庁登録の住所に事務所名を併記する変更をした上で、再度住所変更届の証明請求をしなければと認められないとのこと。結局、別の認証サービスの会社に申請したところ、依頼の翌日には認証キーを発行してくれた。認証に必要な書類や時間は、各団体や企業毎に異なるので、予め確認しておくともスムーズだったのではないかと思う。

事務所を開設するに際しては、営業ツールを用意することも大切なことだと考えていた。高名な先生は別として、自分のような者は独立をしたとしてもそれを知る人を増やさなければ顧客獲得に繋がらないからだ。と言っても、特別なものを用意したのではなく、具体的には、名刺、事務所案内、ウェブサイトを用意した。もともとデザインの本を眺めるのが好きだった

ので、「最新 世界の名刺コレクション」（ピエブックス）等を見ながら自分で名刺のデザインを考えた。一度しかお会いしない方でも、名刺は相手の元に残るものである。名刺のデザインの印象と共に、自分の印象が残ればと、少し印象に残るようなデザインにした。デザインを施した名刺については賛否両論あるかもしれないが、名刺を見て是非名刺交換したいと言っていた際には、お世辞でもうれしかった。事務所案内は、事務所のサービス内容紹介、自己紹介、プライスリスト等を含み、事務所を検討する上での資料としてもらうものである。例えば、初めてお会いしたお客様が、社に戻って事務所の紹介をされる場合などは便利である。また、ウェブサイトは、弁理士会、弁理士協同組合、地域の企業支援団体等に登録しておくことによって、外部リンクからお客様を招くこともできる。ウェブサイトは設立時からホームページビルダーを使って自分で作成しているが、使いこなせるようになるまでにはずいぶんと時間がかかった。独立した知り合いの弁理士はウェブサイトを作るのが大好きだそうで、一日中でもウェブサイト作成に熱中できるとのこと。未だに四苦八苦しながらかウェブサイトを作っている私にはとてももうらやましい話である。最近、自分で作っていると言う話を聞いた大学の後輩がチェックしてくれていて、異常があれば教えてくれたりするもので、とても助かっている。

これまでの準備についての話を読んでいただき感じていただけたかと思うが、代表者にとってコスト削減は重要な仕事のひとつだと思っている。今は成功を取められたある企業の代表者の方から、最初の店舗を出店される時に大手家具メーカーの家具を購入するのがもったいなくて毎日店舗に足を運んで自ら家具の組み立て等を行っていたとお話を伺ったことがある。独立当初から仕事が手一杯という場合は別として、時間が取れるのであれば、自分でできることは自分でやることも必要だと思っている。コストが削減できるというだけではなく、手作りの名刺もプレゼントされた家具も、愛着がわいて仕事を楽しくしてくれるものである。

また、独立するからには広く知識が必要だと思い、会計（経理）、経営、営業に関する本を読んだ。特に、会計（経理）は、近頃よく目にする小説風の書籍で親しむことができた。

### 3. ありがとうと感謝されながらお金をいただく ～顧客満足～

独立して最初に感じたのは、顧客は納品されたものを内容に比例して評価するとは限らないということである。専門性が高く、外国法や裁判例の知識を駆使して仕事をすることに主眼を置いていた勤務弁理士の時とは雰囲気少し違う。特に、中小企業やベンチャー企業が顧客の中心であるため、企業毎に知財の知識レベルも異なれば、ビジネスモデルも異なる。専門家を自社で抱えられない企業が顧客の場合には、コミュニケーションを頻繁にとり、顧客に納得してもらって仕事を進めることを意識している。コミュニケーションを重ねるうちに、顧客の状態をより正確に知ることができ、依頼された仕事を顧客の要求により合致させやすくなるように思う。また、コミュニケーションが頻繁になると、親しみも感じてもらえるようになり、より信頼関係も深まる。以前、顧客企業の社長から、「いつか成功したらうちの会社で雇用してあげるから」と言っていた際には、一緒に働きたいと思っていただけることに感謝の気持ちで一杯だった。

もちろん、国際的で時代に即した仕事をするために、外国法や裁判例等の専門家としての知識が必要であることに変わりはなく、それに加えて、各顧客とコミュニケーションをとり、各顧客の状態に合った対応を模索することを心がけている。

顧客満足を考えた場合、最終的な目標は、先輩弁理士の先生から教えていただいた、ありがとうと感謝されながらお金をいただくことである。

### 4. 仕事のご依頼をいただく ～営業～

独立すれば営業も重要な仕事の一つである。営業の目的は、潜在的な顧客が事務所を知り、魅力を感じ、仕事を依頼することにつなげることである。具体的な営業方法に関しては、自分が得意とする方法や、自分の魅力を一番伝えやすい方法が良いのではないだろうか。文章が上手な人は、ブログやウェブサイト、メールマガジン等のインターネット環境を活用すると良いかもしれないし、人に話をするのが上手な人は講演を数多く引き受けると良いかもしれないし、雑誌の記事や書籍を出版することで、仕事に繋がるかもしれない。私の場合は、今のところ、直接人と会って話をするのが自分に合っているように感じている。もちろん、どれか一つに絞ることなく、色々と試してみることで有

効だと思う。また、営業は直ぐに結果が出なくても時間が経過してから依頼に繋がることもあるので、一喜一憂すること無く継続することが大切だと思っている。

いずれにしても、私のような者が独立をしても誰も最初は知らないのである。そして、独立すれば企業や大事務所という看板もないのである。そのような事務所に仕事をご依頼いただくためには、私個人を信頼していただき、魅力を感じていただくしかない。営業においては、自ら魅力と認識しているものを伝えることと、人としての信頼を得ることが第一のように思う。

### 5. 独立したからこそ自分の思う方向にまっすぐ進む

独立して一番良かったことは、自分が思うとおりに何事もやってみることができるということだ。私の場合、これまでの経験からバイオベンチャーの知的財産ポジションを強くする仕事をしたいと思っていた。日本のバイオベンチャーが国内外大手企業とライセンス交渉する時に、特許上の理由で立場が低くならないようにしたいと思っていた。今は、ベンチャーや中小企業の知的財産の相談に乗りながら、事業活動に合致する出願を行ったり、特許ポジションを整理したり、自分が実現したいと思っていた方向にまっすぐ進んでいると思う。

また、より良いサービスを提供する為に、情報収集は積極的に行っている。技術動向や業界の現状を知るために、積極的にセミナー、会合、学会等に参加して、ニュースでは得られないものを肌で感じるようにしたり、勉強熱心な顧客から、一緒に学会に参加して勉強して欲しいとの依頼を受けて学会に参加したりしている。また、JBA等の業界団体に所属して情報収集に努めている。外国に関する情報収集は、IPO (Intellectual Property Owners Association) の会員になることで、毎日届くメールニュースを読んだり、ミーティングに参加したりしている。昨年シカゴで開催されたIPOミーティングに参加した際には、独立しているのに米国に来ていて大丈夫なのですかと聞かれたが、IPOミーティングにおいて色々な人から直接話を聞くことで得た情報は、やはり行かなければ得られないものが多かったと思う。また、IPOでは、思いもかけず知り合いや、知り合いの知り合いに会うことができ、それぞれの外国での活動について話を聞くこと

もできた。

今後もやりたいことはあるが、いずれも顧客が知的財産を活かせる道に繋がればとの思いでは共通している。

## 6. プライベートについて ～仕事と家庭～

テレビの対談で作家の林真理子さんが、「最近の働く女性はかわいそうだと思う。」と言っていた。何がかわいそうかと言うと、一昔前の働く女性は、綺麗にしていなくても仕事ができるだけでよかった（真偽は定かではないが…）が、今時の働く女性は、綺麗で、家庭のこともきちんとできて、仕事もできなければならないと多くを求められているのだそうだ。

仕事と家事を両立せざるを得ないのは働く女性に（きっと今も昔も変わらず）共通していると思う。独立をして一番ありがたいと思うのは、家族の存在と支えである。仕事が忙しく帰りが深夜になっても文句一つ言わずにいてくれる夫には感謝の言葉もない。働く妻に理解を示してくれているのだと思うと、家事を手伝ってくれるのが時々でも許せてしまうのである。

独立をするとやるべきことは尽きないが、ストレスが溜まれば健康にも良くないので、自分の時間やリラックスする時間は必ずとっている。多分、林真理子さんのコメントの「綺麗」の部分は求められているのではなく、働く女性が自ら求めていることではないかと

思う。花を生けたり、マッサージに行ったり、本を読んだり、自分のための時間は今の私にとって一番のご褒美である。

## 7. 女性が仕事をするということについて

独立することや弁理士であることに限らず、仕事をする上で女性であることは、プラスの面とマイナスの面があるかと思うが、同じ仕事をするのであればマイナス面に囚われてしまうのはもったいないのであって、プラスを如何に活かすかを考える方が余程楽しい。例えば、特許事務所を経営している女性は少ないですねと、それだけお客様に覚えていただけた時には、単純に女性でよかったと喜んでいる。

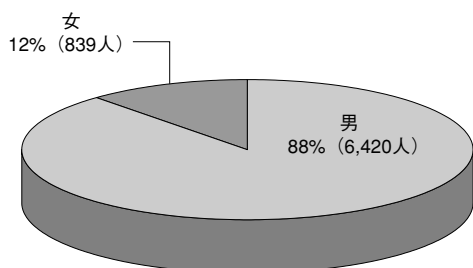
女性が仕事をする中で、男性とは異なることも色々あるかと思うが、これからも人や仕事との出会いに感謝して、ありがたく仕事をさせていただきたいと思う。

## 謝 辞

これまでご指導いただきました多くの方々に、この場を借りて心よりお礼申し上げますと共に、今後とも変わらずご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

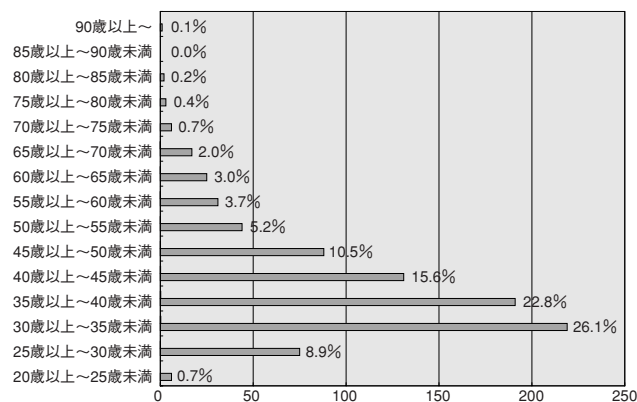
(原稿受領 2007.7.3)

女性弁理士の割合



日本弁理士会会員課調べ (2007年5月31日現在)

女性弁理士の年齢分布



日本弁理士会会員課調べ (2007年5月31日現在)